

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	先進的ケア・ネットワーク開発 研究分野
学籍番号	12S3024	院生氏名	楠元 寛之
通学キャンパス	福岡キャンパス		
論文題目	高齢入院患者における排泄自立と現場(職員)の意識について		
審査結果 (枠で囲む)	○合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt; 判定：合格</p> <p>1. 主論文の内容と概略および価値 本研究では、施設に入院している高齢者の在宅復帰への阻害因子の1つとなっているおむつ装着と排泄自立困難に対する医療従事者の意識を調査し、排泄自立に向けた医療側の取り組みと問題点を明らかにすることを目的としている。研究は2つから構成されており、研究Ⅰでは、各施設を経営している法人の理念や体制についての実態調査と病棟職員の意識を明らかにし、研究Ⅱでは、抽出した異なる施設の職員6名に半構造化面接を実施し、おむつ外しの現状と取り組んだ理由と取り組めない理由やそれ以外に在宅復帰へ向けて実施している自立支援の内容等を明らかにした。その結果、施設間を比較したところ、おむつの使用率が低い施設では、障害が重度な症例でもおむつ外しの可能性は十分にあると考え実践力も高く、排泄自立の理論を十分理解し知識の習得につとめて取り組んでいることがわかった。一方、おむつ使用率が多い施設では、障害が重度な症例は排泄自立の可能性がないと判断し実施されておらず、ADLの自立においても消極的であることが示唆された。これらの意識は職員にも浸透しており、排泄自立に向けて施設をあげた職員教育の重要性が示唆された。</p> <p>本研究は、高齢化社会での在宅復帰に向けて、医療従事者やその雇用者がどのような意識を持つ必要があるかを示す一端となる重要な意識調査をもとにした研究と思われた。</p> <p>2. 論文審査経過 平成26年12月1日に行った1回目の審査会では、論文の構成上の問題点(英文抄録の不備、論文形式の不備、内容・構成の不備、図や表の未整理や不備)や内容・データ解析の不十分なところを指摘し、12月20日を期限として改善を求めた。その結果、内容は改善されたものの一部記述方法に修正が必要な部分があったため再度修正を行ってもらい、現在の研究結果でできるほぼ適切な修正が行われたと判断し、合格とした。</p> <p>3. 口頭試問結果 平成26年12月1日に下記3名の委員により提出論文と発表を基に口頭試問を行った。本研究内容と副論文との関連性、データの解析と分析の適切性(研究Ⅰにおけるアンケート調査のデータ解析の適切性)やその解釈、検討を行った施設間での理念等が結果に及ぼす影響、研究Ⅱにおける半構造化面接の適切性、得られたデータの Kategorization が恣意性の有無、この方面の研究を今後どのように発展させていくのか、などの質問を行ったが、解析手法や解釈などに1部理解不足を感じさせる回答や適切な回答が得られない部分もあったが、申請者本人の領域についての質問にはほぼ適切な回答を得ることができた。</p> <p>4. 審査総括 本結果から、審査員全員は本論文が著者に博士(医療福祉学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認め、本人のこの分野における今までの努力と今後の研鑽を期待し、合格とした。</p>			
論文審査担当者	主 査	後藤 純信	
	副 査	丸山 仁司	
	副 査	森田 正治	